



図書館 めくるくん通信

図書館 ☎ 69・3706

不思議世界への“穴”～ミニ企画展～

『不思議の国のアリス』は今でも世界中で愛されている児童文学の金字塔です。作者ルイス・キャロル(1832-1898年)没後120年にちなみ『ルイス・キャロルのワンダーランド～アリスとドードーをめぐる～』と題し著者や作品を紹介しました。

■物語の世界へ!

展示は1月で終了しましたが、ぜひ本を手にとって、アリス物語のワンダーランドをのぞいてみませんか?



図書館に入った本

毎月たくさんの本やCDが入るよ!
一部を紹介するね♪



『私が食べた本』

村田 沙耶香/著
朝日新聞出版

『コンビニ人間』で芥川賞を受賞した作家による初の書評集。デビューから15年、本にまつわるエッセイが一冊に。



小説



『平成くん、さようなら』

古市 憲寿/著 文藝春秋

歴史



『逆境だらけの人類史』

ビル・プライス/著
日経ナショナルジオグラフィック社

社会



『アンダークラス 新たな下層階級の出現』

橋本 健二/著 筑摩書房

自然



『ナチュラリスト 生命を愛でる人』

福岡 伸一/著 新潮社

生活



『良い間取り悪い間取り』

ザ・ハウス/著 エクスナレッジ

報道



『安倍官邸 vs. NHK』

相澤 冬樹/著 文藝春秋

ダイジェスト



『つま丸のそなん』

金沢嘉市/編著

当館製作。ダイジェスト図書は、本を読むのが困難な方のための録音図書です。

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時は
お気軽に職員にお尋ねください。

ミナミアメリカオットセイ

■少しホームシックかな

11月に南米ウルグアイの海岸から竹島水族館にやってきたミナミアメリカオットセイ(オス、メスの2頭)はすんなりと当館の環境に慣れて経過は良好。広報2月号の誌面でも大きく紹介されました。野生の海で捕獲されてからの初めての長旅、初めての飛行機、初めての生まれた場所以外の環境と初めてづくしの試練でした。にも関わらず、人間不信にならず、極めてお行儀が良く飼育員にかみ



水族館



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68・2059

つかない。ただ、まだ1歳半でホームシックや寂しさがある様子で、飼育員が部屋から離れると、かん高い超獣ギャオスの奇声をあげ連続して鳴いています。2頭ともアシカショーの最中でも関係なしに激しく鳴くので困る。

■順調すぎる経過

トレーニングは3人の飼育員が担当し、うち2人は若い新人です。この2人の教育や経験を兼ねて担当に就かせたのですが、かまらずに、おりこうさんに言う事を聞いているので、残念というか面白くないというか。かまれて苦労して、悩

んで頭を使つて工夫して少しづつ人も動物も成長するのを期待していたのに。それでも野生児か。そんなことでもいいのか。恥ずかしくないのか。と言いたくなる。一方で若い担当者はこれが野生から来たケモノの普通だと思つてしままい、チヨロイもんだなと思つてしままいとぜんぜん勉強や経験にならない。お休みのところすみませんね、と私もたまに獣舎へのぞきに行く。とだいたいオスは何か自分なりに目的があるのかプールをグルグルと休みなく泳いでおり、メスはプールのフチに上陸して大した意味も無く周りの風景を眺めており、私の顔を見ても、担当者ではない、エサをくれないとすぐに判断して、いくら声をかけても寄つてはこず、迷惑そうな顔をして時折折首をねじ

■早くもお披露目

1月中旬からお客さんの前での披露目が始まりました。通常のペースと比べると異例の早さです。しかし、いざお披露目してみるとお客さんの動きにビックリして部屋に戻ってしまったたり、プールに逃げて戻つてこなかったりや散々な失敗状態で、やはり野生の危機感や警戒心がそれなりにあるのだなと感心すると同時に、気を抜いたり、調子が良い時の勝手な憶測などが失敗につながるんだなあと、苦戦する担当者をほんやりと見ながら思いました。いぞいぞ。もつと困らせて苦戦させるんだ。がんばれオットセイ。